

福島市小鳥の森通信

しじゅうから

小鳥の森で観察してみよう94

ベニマシコ

分類 スズメ目 アトリ科

住んでいる環境

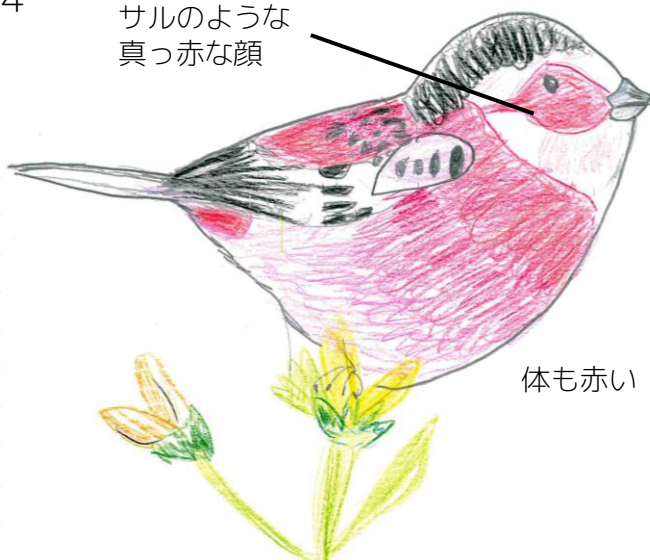
・草地や草原

見られる時期

・冬（10月～3月）

小鳥の森で見られる場所

- ・ネイチャーセンター周辺
- ・カワセミの小径

サルのような
真っ赤な顔

体も赤い

あべ しおりさん（9才）が
描いてくれました。

11月

いきもの森予報

冬越しの季節

11月になると虫の姿はほとんど見られなくなります。冬越しの季節です。冬越しをする場所は種類によってさまざま。くち木（かれてくさった木）の中や土の中では、カブトムシやクワガタムシの幼虫、オサムシなどのコウチュウのなかま、スズメバチもよく見られます。また、めくれた木の皮の下ではテントウムシやカメムシのなかまがじっと冬の寒さをしのいでいます。時には集団で冬越ししている姿が見られる時もあります。

虫というと「夏」と思われがちですが、冬の虫探しも楽しいですよ。



冬越し中のコクワガタ

霜月（しもつき）

「霜月（しもつき）」は旧暦（きゅうれき）で11月のことをさしています。その名の通り、「霜が降りる月」という意味があります。実際に小鳥の森でも、日に日に寒さが厳しくなり、ちょうど霜が降りる季節になります。また、山の紅葉が終わるころ、低地での紅葉も見頃になってきます。

そのころになると、本格的な冬鳥のシーズンになり、園内でもたくさんの冬鳥が見られるようになるでしょう。木の葉が落ちて、野鳥の姿も見やすくなる季節。バードウォッチングを始めてみてはいかがでしょうか。



混群（こんぐん）

森の中ではシジュウカラ、ヤマガラ、エナガ、メジロ、コゲラなどの混群（何種類かの小鳥が集まった群れ）がよく見られるようになりました。この群れはいつもメンバーが決まっているわけではなく、移動の途中の小鳥が一時期だけ混ざることもあります。今年は夏鳥のキビタキやムシクイのなかまが混じる群れを見ることができました。

今年も小さな野鳥たちに囲まれる、至福（しふく）の季節の始まりを感じることができました。



旅するチョウ

普段園内では見ることの少ないアサギマダラを見かけました。渡りという鳥のイメージが強いですが、アサギマダラは最長約2000kmの旅をすることで有名なチョウです。春に北へ移動して、夏を山で過ごし、秋には南へ移動するという不思議な生活をしています。その移動の途中で小鳥の森を通過する姿を観察できる年もあります。

あの日見かけたアサギマダラは今頃どこを旅しているんだろう？そんなことをふと思いだす10月でした。



アサギマダラ

スタッフだより

アカトンボ

秋になるとたくさんのアカトンボが田んぼや公園などで見られるようになります。実はアカトンボという名前のトンボはいません。アカネ属（ぞく）というトンボのグループがアカトンボといわれ、日本には21種類います。小鳥の森ではそのうち、アキアカネやノシメトンボ、ミヤマアカネなど5種類のアカトンボが見られます。

そしてこのアカトンボ、体が赤くなるのはオスだけ。成虫になったばかりのときはオスもメスも黄色っぽい色をしています。卵を産む時期が近づくとつれて、オスだけが赤くなっていくのです。



（レンジャー ますぶち しょうた）

出前講座のご案内

小鳥の森では、市内の学校や学習センターなど様々な団体向けに出前講座を実施しています。

森の話や自然素材（放射線量の低い地域や県外からの寄付でいただいたもの）を用いた工作など色々な講座内容を用意しております。季節や人数、活動時間に合わせたプログラムの作成、組み合わせも可能です。

受付は先着順に行っていますので、希望日の2週間前までに電話かFAXにてお申し込み下さい（※希望日に予約が入っていた場合、対応できないこともございますので、ご了承ください）。



出前講座の様子

*小鳥の森通信「しじゅうから」はホームページで**カラー版**をご覧ください。

*園内の環境放射線量の詳細はホームページをご覧ください。

福島市小鳥の森（ネイチャーセンター） 開館時間：午前8時30分～午後5時

《入場無料》休館日：毎週月曜日（祝祭日の時はその翌日）

〒960-8202 福島市山口字宮脇98 Tel：024-531-8411 fax：024-534-8800

小鳥の森のホームページ・・・<http://www.f-kotorinomori.org/>

小鳥の森通信「しじゅうから」2019年11月号№405 / 企画・発行：福島市小鳥の森 / 日本野鳥の会ふくしま